

城西駅 思い出壁面に

浜松市天竜区佐久間町のＪＲ飯田線城西駅に、大学生や子どもたちが地域の暮らしや伝統文化を描いた壁画が完成し、お披露目された。
(野瀬井寛)

駅員や通学見守る警官



完成した壁画の下に集まった学生や地元の子どもたち＝浜松市天竜区のＪＲ飯田線城西駅で

壁画は駅舎内２カ所の窓枠上にあり、縦約70センチ、横はそれぞれ約3・5メートルと約4・5メートル。「渡るすの橋」として有名な近くの鉄橋を走る列車や、かつていた駅員、駅を彩った花々や、通学を見守ってきた警官など、駅の思い出につながる内容を中心に描いた。地元の祭りの屋台や民俗芸能「今田花の舞」に登場する鬼の姿のほか、滝や茶畑などの風景なども盛り込み、地域の魅力を伝えている。

地域の活性化に取り組む団体「シン・サクマ計画」が呼びかけ、静岡文化芸術大（中央区）の学生と地元の子どもたち計40人ほどで制作した。住民から思い出を聞き取って構想をふくらませ、5月ごろから大学で作業を進めてきた。

デザイン学部3年の國定奈々海さん（21）は「駅にきれいな桜が咲いていたという話が印象的で、デザインに取り入れた。かつて駅を訪れた人たちの記憶がよみがえる絵になっていれば」と願った。

団体は2年前に浦川駅、昨年は佐久間駅に壁画を設置している。